

音声認識ソリューション・製品特集によせて

近年、ネットワークがブロードバンドからNGNなどの新たな環境へと進展し、同時に仮想化やセキュリティ関連の技術が進歩することで、既存のIT環境を超えた柔軟なITの利用が可能となっています。一方、企業などにおいては、IT投資の平準化やシステムのTCO削減のニーズが強まっており、IT資産を所有するのではなく、ネットワークを介して必要な機能をスピーディかつ柔軟に利用するというクラウド指向のサービス基盤の活用に関心が高まっています。

更に、利用者の環境に目を移すと、モバイルノートPC、シンクライアント、携帯電話端末など、オフィスや現場、外出先からの利用に適した多様な情報端末が登場しており、インタフェースにタッチデバイスや音声入力などを組み込んで操作性を向上させることで、クラウドサービスをいつでもどこでも便利に利用できる環境が整ってきています。

こうした中、NECでは、クラウドサービスを安全・安心で使い勝手よく提供するために、サービスプラットフォームから利用者端末に至るまで、自社が保有する先端技術の組み込みを積極的に進めています。中でも、音声認識技術は、古くから研究開発を進めている先端技術の1つで、1960年の研究開始以来、これまでにロボットプラットフォーム、パーソナル商品、業務システムなどのさまざまな分野で適用製品を提供してきました。

特に近年は、電話受付や会議、対面での応対などのビジネスシーンを対象に、人と人の自然な会話をテキスト化する「話し言葉認識」と、さまざまな端末で音声入力インタフェースを利用できるようにする「コンパクト音声認識」の2つの領域に注力して、研究開発とビジネス展開を進めています。

話し言葉認識は、業務用途のソフトウェアとして先駆けて製品化し

ており、既に官公庁、自治体、企業のお客様の業務システムに本格的に使われるようになってきています。また、コンパクト音声認識は、騒音のある環境下でも利用可能な現場業務端末として幅広い分野で使われており、最近はさまざまな携帯型端末が登場していく中で、組み込み技術の一つとして注目されています。

本特集号では、音声認識技術を活用したビジネスの最新の取り組みについて、ソリューション・サービス、製品、クラウド時代に向けた研究開発の実験事例を中心にご紹介いたします。

最後になりましたが、本特集号につき是非ご一読賜りますとともに、今後とも皆様方の変わらぬご愛顧とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



執行役員常務
伊藤 行雄